



令和4年度

# 松浪小だより

第13号

学校教育目標……『豊かな心を持ち、自律して行動できる子』を育む学校

目指す子供像…『・進んであいさつする子・自ら学び、自分の考えが言える子・人の話が聞ける子  
・元気よく友だちと遊ぶ子・進んで仕事をする子』

理想とする学校像……「共に学び 共に歩み 共に創る」

- ①児童や教職員が生き生きする学校
- ②保護者や地域から信頼される学校
- ③教職員が互いに研ぎ合う学校

令和5年1月31日(火)発行  
茅ヶ崎市立松浪小学校 校長 安倍 武雄

## 理科の見方・考え方

訳あって、5年生の理科の授業を各クラス2時間受け持たせていただいています。「流れる水のはたらき」「もののとけ方」「人のたんじょう」の3単元です。「もののとけ方」の学習は実験を伴いますから準備も多いのですが、安全にも気を配りながら実施しています。

ところで、新しい学習指導要領においては、総則の中で次のように述べられています。

各教科等において（中略）学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

（傍線部 安倍「小学校学習指導要領 第1章 総則 第3 教育課程の実施と学習評価」）

簡単に言えば、「教科ごとに独特な「見方・考え方」があり、それを鍛え、生かしながら学習を進めましょう」ということです。例えば理科という教科においては、

- ・比較「複数の自然の事物・現象を対応させ比べること」
- ・関係付け「解決したい問題について予想する際に、既習の内容や生活経験とを関係付けたり、変化とそれに関わる要因を関係付けたりすること」

という「見方・考え方」があります。

もののとけ方の単元では、①「見えないけれどもあるのかな（質量保存の法則）」②「溶ける限界はあるのかな（飽和）」③「もっと溶かすには（飽和・温度変化）」④「溶けているものを取り出す（再結晶）」を学習するのですが、子供たちの予想を聞いていると、とても楽しくなってしまう。

②の授業では、飽和になれば溶け残ると大人はわかっていますが、5年生の子供たちの中には半信半疑の子もいます。「限界はあるのか？」との問いに、これまでの経験から「いくらだってとけるんじゃないかな？だって、見えなくなるし…」「水パワーはなんでも溶かすんだよ」…といくらでも溶けると予想する子もいます。しかし、逆に「カップラーメンのお湯が少ないと粉が残るよ」「ねるねるねるねの液が少ないと粉が残る」「入浴剤お風呂にひっくり返したら残っちゃった」…。まさに、「既習の内容や生活経験とを関係付け」ています。中でも秀逸だったのはブラックホール理論です。「だってさ、いくらだって溶けるとするでしょ。水滴があったとして、そこに塩を入れていってもいくらでも入ることじゃない？そんなブラックホールみたいなことはあり得ない！」との結論付けでした。

実際に実験してみる（ここでも、「複数の自然の事物・現象を対応させ比べる」＝比較のために食塩とミョウバンを使います）と、食塩は水50 mLに対し15 gほど溶け、ミョウバンは5 g溶けるか溶けないかです。「やっぱり溶ける量には限界がある」という結論になります。そして、実験は「もっと溶かすには」に続くのです。

「過去の経験を生かして推論する」ことは、何も理科だけに限ったものではないけれど、それを意識的に使うことで、子供たちの将来は大いに変わってくると思います。今使える知識を総動員して問題を解決しようとする経験が大事ですね。子供たちのものに対する概念が大人に近づいていくのを間近に見られる良い機会になっています。

## ボランティアに支えられて



松浪小学校の職員玄関まわりの鉢植えのお花、職員自転車置き場周辺の花壇、体育館南の花壇など季節のお花がいつもきれいに咲いています。私が好きなのは、職員玄関前の小さな桜の鉢植えです。春になると、小ぶりのかわいい花がたくさん咲き、気持ちを柔らかくさせてくれます。このお世話をしてくださっているのが「松浪フラワーコミュニティ」というボランティアの皆様です。数年前、PTAのガーデニングサークルの参加者が減り、サークルはなくなってしまいました。しかし、学校にお花がないのは寂しいとの思いからお子さんが卒業後も活動できるように立ち上げたボランティア団体です。

また、「開き読みの会」の皆様にもたくさんお世話になっています。季節や行事合わせた選書をしていただき、子供たちに絵本を読み聞かせたり、手遊びをしたり、語りを行ったりと本の楽しさ、読書の喜びを伝えてくださっています。楽しみにしている子供たちもたくさんいて、開き読みの時間にはキラキラした目で集中してお話を聞いています。校長室の前の本のディスプレイもしてくださっています。



そして、毎朝お世話になっている「見守り」の皆さんです。現在、茅ヶ崎市全域で行われている見守り活動ですが、この松浪地区が発祥だと聞いたことがあります。自治会や老人会、ボランティアがそれぞれ自分たちの地域の子供を地域の手で守っていこうということで始めたのだそうです。おかげさまでこれまで松浪地区では大きな交通事故は聞いたことがありません。

本当に地域の皆様に愛されているありがたい学校だと感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。ただ、どの活動も一緒に活動して下さる方が少なく困っているというお話を伺います。一緒に活動してみたいということがあれば学校までお電話をいただければご紹介いたしますのでご連絡をお待ちしています。

ボランティアは「やれる人が やれるときに」です。「やれないからお願い」ではなく、ありがたい感謝の念と「できるようになったら…」の気持ちは忘れずにいたいものです。